

英語インタビューテスト(先生と1対1)

【生徒用・課題カード】

Class_____ No._____ Name_____

 **ゴール:** 先生からの質問に3つ以上答え、自分からも1つ質問できる

場面 ALTの先生と初めての1対1トーク。質問に答えるだけでなく、あなたからも聞いてみよう。

先生からの質問(例): Do you like sports? / What do you have for breakfast? / Do you play video games?
あなたからの質問(1つ以上): Do you like ~? / What ~ do you like?
こまったときの技: Pardon? / One more time, please. / Well...(考え中の合図)

準備 テストまでにすること(授業1回)

よくある質問リスト10問でペア練習(質問役・答え役を交代)。「Yes/Noのあとに一言足す」練習を重点的に(Yes, I do. I play soccer.)。

本番 時間: 1人90秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事!)
正確さ	今回の言語材料が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	あいづち・聞き返し・相手への質問があったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよなく使おう。

ねらい

このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	質問を聞き取り、応答し、自分からも質問を返す——やり取りを往復させる力
なぜ必要か	中1の疑問文学習は「作る」練習に偏りがち。実際の対話では「聞かれて→答えて→聞き返す」の往復が本体で、その最小単位を1対1の安全な場で測る。聞き返し表現を加点することで、「わからない＝失格」ではなく「わからないと言える＝技能」という評価観を最初に植える。

評価

ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) すべての質問に応じ、＋一言や自分からの質問で会話が広がった	B(2点)＝評価規準 3問に答え、自分からも1問できた	C(1点) 応答が単語のみ・会話が続かない
正確さ	A(3点) Do you ～? / I ～.の形が正しい	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが応答として通じる	C(1点) 通じない誤りが多い
流暢さ	A(3点) テンポよく、考える時もWell...でつないだ	B(2点)＝評価規準 間はあるが自力で続けた	C(1点) 沈黙が長く日本語に切り替わった
態度	A(3点) アイコンタクト・あいづち・聞き返しが自然	B(2点)＝評価規準 目を合わせて応答できた	C(1点) うつむいたまま

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用

当日の流れ(2コマ(他の生徒は自習課題))

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1人90秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ

質問リストの「最後の1問」だけ当日変えると、暗記ではなく対応力を測れます。聞き返しをした生徒をその場で「Nice question!」とほめると、教室全体の会話の技が育ちます。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。